

## 《札幌地方推進委員会優秀賞》



### 心の成長

手稲中学校 1年 本間 妃菜

私は、いつも思うことがあります。「本当の自分を見せることができたなら。」私は、いつも願うことがあります。「一人一人が自分以外の人のことを考えられたら。」私の思いと願いは、小学校の体験から生まれた私自身のいましめでもあります。私は素直さを詩から学び、思いやりを大切な先生から教えられました。私の体験を聞いてください。そして、一緒に考えてください。

まず最初は、「本当の自分を見せること。」についてです。皆さんは、本当の自分を見せていますか。私は小学生の頃、本当の自分を見せていませんでした。なぜなら、「変わっている」と思われることが嫌だったからです。変わっているとかわれられないように、周りに合わせて、小学校生活の半分くらいを過ごしていました。特に、「～はいいよね。」という会話では、好きではないのに、「分かる。いいよね。」と友達に合わせていることがありました。本当の自分を見せることは、自分にとってマイナスなことだと思っていました。そんなとき国語の授業で、金子みすずさんの詩と出会いました。その詩は、「私と小鳥と鈴と」です。この詩の最後の一行にあった文は、「みんな違ってみんないい」でした。その一行は、金子みすずさんが私に、みんなそれぞれの個性を持っていて、その一人一人の個性が良いと言ってくれているような気がしました。そしてこの詩に登場する女の子は、人と違う所を楽しんでいるような気がしました。

それから私は、この女の子のように、人と違う所を楽しみたいと思うようになりました。次の日から私は、本当の自分を見せることに抵抗が少なくなっていきました。もし、本当の自分を見せて、「変わってるね。」などと言われたら、みんなと違う所がいい。自分にしかない大切な個性、とプラスにとらえていこうと思います。さらに、個性を出し合って話をする事ができれば、幅広い考えが生まれます。考えが生まれるためには、本当の自分を、見せていくことが大切になると私は考えました。

だから、今私は、本当の自分を積極的に見せることができるようになりました。

次は、「人のことを考えた行動」についてです。皆さんは、「この人嫌だなとか、苦手なタイプだなあ。」と思ったことはありませんか。私には、正直苦手な人がいました。それは、今でも胸が痛くなる体験でした。

クラス替えが行われた日。今まで一緒になっていなかった子と会いました。その中の、彼女が少し苦手でした。苦手になったきっかけは、ささいな彼女との言い合いです。授業中にはしてはいけないことをしていた彼女に、私は注意をしました。すると隠すようにして「あなたには関係がない」と怒った口調で言われました。私は、複雑な感情になりました。その日から約一年間その子を避ける行動をとってしまいました。そして迎えた新学期。担任の先生は私達に伝えてくれました。

「苦手な人がいても陰で悪口を言うことは、絶対にしてはいけません。思うことはいいですが、言葉にしてはいけないことがあります。悪い所ばかり見ず、人の良い所を探してください。」

私はこの言葉が、心に刺さりました。悪口を言っていなくても、彼女が不快と感じる行動をしたことは、今でも後悔しています。それから私は、彼女の良い所を探して、見つけることができました。さらに、なぜ一年前に彼女が私に怒ったのかを考えました。いけない行動をしたことを理解してはいたけど、それを直接非難されたことが、彼女にとっては素直に認めることができなかつたのかもしれないと、今なら考えることができます。

これからもきっと人とぶつかり、苦手と感じてしまうこともあると思います。でも、苦手なところばかり探さないで、一つでも多くの良い所を見つけて行こうと思います。

私は、今でもたくさん後悔がありますが、後悔があつたからこそ、自分の考えをしっかり持ち、成長できたと思います。その成長は、今の中学校生活にもつながることができています。これからも、小学校の体験をいかして成長していきます。

